

事前評価報告書

事業名: 富士見・八ヶ岳山麓地域の未来のまちづくり・ラボ実現プロジェクト

実行団体: 特定非営利活動法人こどもの未来をかんがえる会

報告者: 特定非営利活動法人こどもの未来をかんがえる会

資金分配団体: 認定特定非営利活動法人富士山クラブ

実施時期: 2021年4月～2024年3月

対象地域: 長野県

直接的対象グループ: _____

間接的対象グループ: _____

概要

事業概要
<p>長野県富士見町及び八ヶ岳山麓地域（山梨県北杜市、長野県諏訪地域等を含む）で地域の資源や宝を生かして、町民のニーズに対応し、町の課題解決につながる商品やサービスの創造を民間団体、事業者、行政、町民が一体となって取り組むリ빙ラボを実践する。具体的には、地域の経済循環の実態を分析するワークショップの開催等を通じて地域の関係者がつながるプラットフォームと学びと行動を促すリ빙ラボを地域内に生み出し、地域経済循環の取組を促す契機とする。</p> <p>同時に、子ども・若者の学びと育ちを支援する多世代の居場所づくりを継続的に行い、高校生たちの参加も得て自立的な活動に発展させていく。</p> <p>プラットフォームづくりを契機に、規格外の野菜などの未利用の野菜の地域内供給の仕組みを構築。これらの野菜等を活用して、上記の居場所に参加する子ども達や女性など多様な人たちの参加により、縄文文化を生かした新しい食のメニューを開発する。開発された食メニューをプラットフォームやリ빙ラボを通じ広く普及し、食の地域循環を促す仕組みづくりを通じて新たなソーシャルビジネスを生み出す基盤をつくる。</p>
中長期アウトカム
<p>八ヶ岳山麓地域において、「八ヶ岳山麓食のまちづくりフォーラム」協力団体が、地域内経済循環を考え、地域内経済循環の活性化するための具体的な活動が始まる。（交流の場）</p> <p>事業終了から2年後には申請事業を契機に、食に携わる関係者が協働して、共同加工所や地域内の食の流通の仕組みづくりが整えられ、ソーシャルビジネスを生み出す基盤が整う。（活躍の場）</p> <p>事業終了後5年後には子どもの居場所が継続的に提供され、子どもや若者の活躍により特色のある健康的な食の普及が進み、富士見町及び周辺の地域との連携により食を中心とした地域内の資源循環が実現し、経済社会が活性化し、子どもや若者に希望と夢を与える地域や社会になる。（創造の場）</p>
短期アウトカム
<p>富士見町など八ヶ岳山麓地域において、農業、飲食店、若者等が地域経済循環の重要性を共有し、地域の拠点がリ빙ラボとして、地域課題を解決するために協働し、製品や商品を生み出す創発的な拠点として成長する。（交流の場）</p> <p>富士見町等八ヶ岳山麓地域において、縄文文化など富士見らしさを生かした食のメニューの製品化が行われ、食の循環による経済の活性化と八ヶ岳山麓の食を通じた地域の魅力が高まる。（活躍の場）</p> <p>子ども・若者たちの自己肯定感を高め、多様な学びと成長を促すとともに、地域づくりに子ども、若者が積極的に参加し、子どもたちのアイデアや夢が実現できる社会が生まれる。（創造の場）</p>

事業の背景

(1) 社会課題
<p>高齢化と人口減少の中で、子ども若者や農業に携わる人たちが減少し、地域における職場も限られており、多くの子ども、若者たちが将来この地域で自らの夢を実現する希望を持っていない。</p> <p>また多くの農家で後継者がおらず、農業を支え、農地を維持していくことが困難になっているほか、新型コロナウイルス感染症の影響により飲食店、宿泊業が厳しい経営状況となり廃業する事業者も生じている。</p> <p>地域の多くの資金が地域外に流出する中、地域内経済循環を図っていくことで、地域の経済の活性化を進めていくことが求められている。</p>
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況
<p>子ども・若者、高齢者、農業、商業等行政による支援は対象や分野毎に縦割りで、地域の様々な関係者をつなげ、統合的に課題を解決していく取り組みがなされていない。</p> <p>また富士見町は、課題のある子どもに特化した個別支援は行っているものの、多様な子どもを受け入れる地域における居場所づくりは取り組まれていない。</p> <p>農業については、農業生産支援がメインであり、地域内で付加価値の高い状態で加工し、地域経済循環を促す取り組みや市場流通にまわらない食支援まで手が届いていない。</p>

評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	役職等
内部		「富士見・八ヶ岳山麓地域の未来のまちづくり・ラボ実現プロジェクト」事務局
		「富士見・八ヶ岳山麓地域の未来のまちづくり・ラボ実現プロジェクト」事務局長
		「富士見・八ヶ岳山麓地域の未来のまちづくり・ラボ実現プロジェクト」事務局
外部	食品衛生法の改正について	警工房

評価実施概要

評価実施概要

■交流の場（町内のつながりづくり）

富士見・八ヶ岳山麓地域の活動団体に対し、オンラインでの勉強会を2回開催。その募集時や開催時に、まちに対してどのような課題感を持っているか、協働の学びとしたいテーマを探った。またこれまでの居場所づくりの活動を踏まえて今後の活動の方向性について検討した。

■活躍の場（地域内経済循環の実践・協働）

富士見・八ヶ岳山麓地域の活動団体、食にまつわる生産団体に対し、地域内の循環の必要性や有効性、生産団体の困っていること、解決したいことなど、対面によるヒアリング調査を行った。
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1K8NSwnzDRYF4ByCzWWZ-KqBS3wDKTSV2YHcQdgf7Rq0/edit?usp=sharing>

■創造の場（子ども・若者支援）

子どもたちがまちに対して何に期待しているのか、町内の4小中学校や公共施設、スーパーに「ポスト」を設置し、子どもたちの思いを寄せてもらった。

自己評価の総括

■交流の場（町内のつながりづくり）

オンラインでの勉強会の1回目に「住民主導のまちづくり」として島根県邑南町の役場職員をゲストに迎え、邑南町で実施されていることをお話しいただいた会には60名が参加した。2回目には神奈川県横浜市・太陽住建社長をゲストに迎え、「リビング・ラボ」について、実践されていることをお聞きした会には20名が参加した。最後にグループセッションを設けることで知らなかったまちの人の人との繋がりをづくり、意見交換をすることへの満足度が高いよううかがえた。何らかのきっかけを提供し、町内での対話の場をつくるのが今後の活動の大きな土台となることがイメージできた。今後は学びの場として、商店街活性化、環境保全、福祉のまちづくり、子ども・若者支援といったテーマ性を拠点ごとに持たせて勉強会を開催し、町民同志のネットワークづくりを広げていく。

■活躍の場（地域内経済循環の実践・協働）

食の生産団体においては、余剰野菜をどうしたらいいのかという共通の課題感、また食品共同加工のニーズがありそうだと想定し、ヒアリングを行った。その結果、食品加工をしている事業者、していない事業者ともに課題感を持っているものの、どうしたらいいか解決のアイデアは持っていないことが見えてきた。また2021年6月の食品加工の法改正に伴い、緊急課題となっていることもわかってきた。特定された課題の妥当性、事業対象の妥当性、事業設計の妥当性は概ね高く、実施したいと考えている方向性に各団体からの賛同の声をいただいたことから、食品共同加工の実現は、食の生産団体にとって一つのモチベーションになりうる事項であると考えられた。

■創造の場（子ども・若者支援）

子どもたちがまちに対して何に期待しているのか、町内の4小中学校や公共施設、スーパーに「ポスト」を設置し、子どもたちの思いを寄せてもらった。100枚以上が投函されており、温水プールが欲しい、お店が増えたらいい、学校の周りがソーラーパネルにならないといいな、など子どもたちの目線を知ることができた。投稿内容を展示したところ、自分の投稿内容を大人たちに説明する風景も見られた。このことから、支援の輪や居場所といった場所があるだけでなく、子どもたちの意見や気持ちに耳を傾ける必要性を感じた。

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	概ね高い	<p>■交流の場（町内のつながりづくり） 達成したいアウトカムには、町内のいろいろな場所で「リビング・ラボ」が生まれていく、その土台をつくりたいというアウトカムを考えている中、オンライン勉強会というきっかけさえあれば、そこに60名も集まってくれることが確認できた。市民主導でどのようにまちをつくっていくのか、最初はお茶会や交流会、そして地域の企業も関わることでビジネス視点を取り入れた勉強会としていく必要性がありそうだとということも見えてきた。</p> <p>■活躍の場（地域内経済循環の実践・協働） 余剰野菜、食品共同加工という2点に絞ったが、2021年6月の食品加工の法改正に伴い、特に食品加工については緊急課題となっていることがわかったことから、課題は妥当であると考えられる。現在、運搬コストや加工コストによってあきらめている団体は、町内での共同加工場があれば使いたいということ、また食品加工をしている団体は、遠方へ委託しているケースが多く、そこで費用がかさんでいることがわかってきた。</p> <p>■創造の場（子ども・若者支援） 町内の4小中学校や公共施設、スーパーに「ポスト」を設置し、子どもたちの思いを寄せてもらったことで、子どもたちがまちに対して何に期待しているのか、何に困っているのか、課題そのものがしっかりと見えていない可能性もあると気づいた。大人たちが課題と考えていることが課題ではなく、子どもたち自身がこうなったらいいなど考えていることに寄り添う必要があることがわかった。</p>
	②特定された事業対象の妥当性	概ね高い	<p>■交流の場（町内のつながりづくり） 2回のオンライン勉強会の実施から、地域の課題や地域の知恵、技術、まちづくりに町民の関心があることがわかった。学びから始めて、地域課題を解決する活動へと発展していくその土台をつくることは、事業対象として妥当であると考えられる。</p> <p>■活躍の場（地域内経済循環の実践・協働） 余剰野菜、食品共同加工という2点だけでなく、地域での味噌づくりやひまわり油づくりといった富士見町特有の活動において、メンバーが高齢化して後継者がおらず、活動停止を余儀なくされている様子も見えてきた。こうした活動が終わってしまわないように何ができるのかも事業対象として考えておきたい。</p> <p>■創造の場（子ども・若者支援） 子育て期のお母さん5名にグループインタビューを行ったところ、学校帰りに立ち寄って友人らと話したり、宿題をしたりする学校でも家でもない第三の場所があることは、下の子が小さくて上の子の宿題をなかなか見てあげられない、一度帰宅すると友人宅まで距離があるから遊びに行けないといった点で期待されていることがわかった。また、そうした居場所があることで、宿題を自発的に取り組むようになった、不登校がみではあるが、その場所へは躊躇しないで行けるなどの声もあがった。このことから、いつでも立ち寄ることのできる居場所の役割が見えてきた。</p>
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	やや低い	<p>■交流の場（町内のつながりづくり） 2回のオンライン勉強会のゲスト講師に、それぞれヒントをいただいた。島根県邑南町の役場職員・田村氏からは、役場が予算をつけながらうまく住民のやる気を引き出し、伴走しきることを教えてもらったが、富士見町では行政職員の参加率が低いように感じられる。行政、行政職員をどのように巻き込めるかが事業設計の視点に欠けていた。若手行政職員に個別に声をかけていくなど検討していきたい。</p> <p>■活躍の場（地域内経済循環の実践・協働） 味噌づくりやひまわり油づくりといった富士見町特有の活動において、活動停止となっているためヒアリングもできない状況もあった。一方で、カゴメみらい農園などでは、使っていない場所もあることもわかった。町内の閉じてしまった加工場、あるいは空いている加工場をどのように共同で使える場所にしていくのか、しっかりとした事業設計のためにまだまだリサーチが足りていない点もわかった。</p> <p>■創造の場（子ども・若者支援） この点については時期をずらし、10月を目安に専門家への相談を計画している。</p>
	(④事業計画の妥当性)		

事業計画の確認

重要性（評価の5原則）

本事業は、主に富士見・ハケ岳山麓地域における食にまつわる生産団体の協業を目的としており、そのため生産団体が困っていることをみんなで解決するアイデアとして余剰野菜を地域内で循環させる仕組みづくり、食品加工場を生産団体でシェアをする仕組みづくりにおいて、どこまで実現に向けた具体的な設計ができるかが評価において特に重要であると関係者間で合意された。

今後の事業にむけて

事業実施における留意点

集まることが難しいコロナ禍のいま、対話をzoomなどのオンライン上で行うことが考えられるが、生産者は高齢化もしていることから、定期的な情報共有は何度も足を運ぶことが望ましいと考えられる。

添付資料